※本文内の( )内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願状況全体概況

□一般選抜志願者数は前年度並

〔設置・日程別志願状況〕

設置	日程	2026年度					2025年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,115	179,603	2.85	+992	101	63,511	178,611	2.81
	後期	11,964	115,063	9.62	-6,065	95	12,243	121,128	9.89
	合計	75,079	294,666	3.92	-5,073	98	75,754	299,739	3.96
公立	前期	16,857	55,712	3.30	-1,396	98	16,872	57,108	3.38
	後期	3,053	37,748	12.36	-1,065	97	3,222	38,813	12.05
	中期	2,410	31,132	12.92	-1,709	95	2,388	32,841	13.75
	合計	22,320	124,592	5.58	-4,170	97	22,482	128,762	5.73
合計	前期	79,972	235,315	2.94	-404	100	80,383	235,719	2.93
	後期	15,017	152,811	10.18	-7,130	96	15,465	159,941	10.34
	中期	2,410	31,132	12.92	-1,709	95	2,388	32,841	13.75
	合計	97,399	419,258	4.30	-9,243	98	98,236	428,501	4.36

※文部科学省発表の最終確定値(独自日程を除く)

文部科学省が2月18日に発表した2026年度国公立大一般選抜の確定志願状況によると、確定志願者数(独自日程で入試を実施している国際教養大、新潟県立大、叡啓大、芸術文化観光専門職大を除く)は 419,258 人で、前年度と比べて 9,243 人(98)の微減となりました。共通テストの平均点ダウンにもかかわらず、国立大前期は微増となりました。一方で、公立大は前年度高倍率だったことを敬遠し、出願をあきらめた受験生が多かったことがうかがえます。なお、募集人員は後期日程の廃止などで国公立大全体では 837 人の微減でしたが、志願倍率は 4.36 倍→4.30 倍とほぼ前年度並でした。

〔確定志願者数推移〕(独自日程を除く)

□国立大は前年度並、公立大はやや減少

【設置別】

国立大……前期は 992 人(101)の微増、後期は 6,065 人(95)のやや減少でした。この結果、国立大全体では 5,073 人(98)の前年度並となりました。

公立大……いずれの日程も減少で、前期は 1,396 人(98)の微減、後期は 1,065 人(97)、中期は 1,709 人(95)のいずれもやや減少でした。前年度出願者数が多く高倍率になったことで敬遠され、公立大全体では 4,170 人(97)のやや減少となりました。

【日程別】

前期……募集人員は 411 人(募集人員指数 99)減少しましたが、志願者数は 404 人(100)の減少にとどまったため、志願倍率は 2.93 倍→2.94 倍と 0.01 ポイントアップしました。志願倍率は 2021 年度から6年連続3倍を下回りました。

後期……志願者数は 7,130 人(96)のやや減少でした。後期廃止の大学もあり、募集人員も 448 人(募集人員指数 97)減少したため、志願倍率は 10.34 倍→10.18 倍と 0.16 ポイントダウンとなりました。

中期……志願者数は前年度 1,773 人増加したのとほぼ同じ 1,709 人(95)のやや減少でした。募集人員は 22 人(募集人員指数 101)増加したため、志願倍率は 13.75 倍→12.92 倍と 0.83 ポイントダウンしました。